

山装う頃も近く、青く澄んだ空が気持ちまで晴れやかにしてくれそうです。
さて、今夏はヘルパンギーナなどによる流行警戒レベルの発令がされるなど、新型コロナウイルス感染症だけではなく、「感染症」に対して皆さまの関心がより一層高まったのではないのでしょうか。感染症予防にはこれからも十分に注意を払いたいものです。

女性医師・研究者のキャリア形成を考える座談会カフェ



8月4日、「女性医師・研究者のキャリア形成を考える座談会カフェ」を開催しました。ハイブリッド開催ということでZoomでのご参加も頂き、和やかな雰囲気の中で座談会カフェは始まりました。

研究の場として当初より本学を選ばれた以外に、専門学校から、または、社会人として活躍されてのち本学で研究を行うことになったきっかけや経緯、培ってきた研究の内容についてお話しいただきました。

研究する分野は違っても、お互いの存在が研究を続ける上で刺激となり、時に支えとなり、時に背中を押してくれ心強いなどの活発なご意見で場が盛り上がりました。

ダイバーシティ推進室は、女性医師・女性研究者のネットワーク作りに向け今後も座談会カフェを開催予定ですので奮ってご参加ください。

10月は「男女共同参画推進月間」

本学では、毎年10月を「男女共同参画推進月間」として、ダイバーシティ（多様性）へのご理解と、職場内での意識の改革を促進するため、推進員でもある各所属長主催による「職場内研修会」を開催していただく予定です。

「ダイバーシティ推進マニュアル」の読み合わせなどを通じて、所属単位でダイバーシティ推進についての意識浸透を図っていただきたいと思います。

ダイバーシティ推進マニュアルについて

「ダイバーシティ推進マニュアル」は、すべての教職員が活躍できる職場づくりを目指して作成しております。各所属でダイバーシティ推進のためにご利用ください。

また、「チェックシート」が用意されていますので、ダイバーシティを推進し、どのくらい実施していただいているかを確認することもできます。



出典：【福島県立医科大学】
HPより一部抜粋
(くわしくはコチラ⇒)

「ダイバーシティ推進講演会」を11月7日に開催

『ダイバーシティ推進講演会』を開催

日にち：令和5年11月7日（火）
時間：17時30分～19時20分
開催形式：会場、Webによるハイブリッド開催
会場：福島県立医科大学 講堂
対象者：本学全教職員、大学院生、学部学生

ご講演者：

◎前野 隆司 先生

（慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授、慶応義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長）

◎大隅 典子 先生

（東北大学副学長 東北大学男女共同参画推進センター）

※詳細については後日広報いたします。

👤 研究支援を受けている先生方からの感想を紹介 👤

当推進室では、ライフイベント（妊娠・出産・育児・介護等）を抱えた教員の研究支援を行っております。今回は、研究支援を受けている先生方にお話を伺いました。

当たり前の生活リズムに気づく 衛生学・予防医学講座 講師 日高 友郎先生

令和3年度下半期より研究支援制度を利用し、データ入力の作業をお願いしております。私の拙い説明や不揃いな入力用紙にもかかわらず、支援員の方は的確に作業をお進めくださいます。

保育園に通う子どもがおります。共働きの家庭なもので、触れ合える時間は朝と夜。データ入力のご支援をいただいている「4時間」という時間が、この朝と夜に2時間ずつ割り振られている格好です。おかげさまで私は平日の朝食・夕食の作成を担当できるようになりました。子どもにも「うちはパパが料理をするタイプの家」と認識されている気配があります。

家庭に多くの時間を使えるようになったことで、「これが当たり前の生活リズム」と感じるようになりました。そして、研究の生産性も決して落ちていないことに気づきます。今やなくてはならない研究支援制度。これからも制度の維持・拡大を心より望む次第です。

スキルアップセミナー開催

9月12日、講師にエルゼビア・ジャパン株式会社の井上淳也様をお招きし、『科学英語論文投稿セミナー 論文投稿準備と執筆のポイント～読みやすく、ハイインパクトな論文を目指そう～』と題して講演いただきました。

論文投稿経験のある研究者のみならず、これから投稿論文を執筆しようとしている研究者の方にも、論文投稿の事前情報収集に「Scopus」をどのように活用することができるのかについて解説して頂きました。最近話題の「ChatGPT (AIツール)」を利用した論文執筆には国や地方自治体、学内で利用に関するガイドラインが設けられているものもあるので再確認が必要であること、「AIツールの潜在的な利点とリスク」など有意義な話題を提供していただきました。また、学術誌出版社視点からのAIツールとの付き合い方についても講演して頂きました。これらの新しい技術を上手く活用することで、「作業」時間を削減し、「思考」時間を生み出し、よりよい論文執筆に繋げていきたいものです。

研究支援制度を利用して 保健科学部臨床検査学科 教授 宇月 美和先生

私は2021年度下半期から2023年度上半期まで、連続して研究支援制度を利用させていただいております。前職は仙台市内の私立大学でしたが、そこではそのような制度はなく、本学でこの制度を知った際には手厚い支援に驚きました。

私は駅前キャンパスが稼働し始めたタイミングで本学に着任しましたので、駅前キャンパスで本制度を利用した最初のケースかも知れませんが、最初は光が丘のスタッフによる遠隔支援でした。メールやUSBメモリのやりとりで、若干のタイムラグが生じていました。

2022年度からは駅前キャンパス内の学生による研究支援となり、固定された時間を基本に、お互いの講義の空きコマなどで融通を付けられるようになり、効率が上がりました。お陰様で子供と家で過ごせる時間が増えて、感謝しております。

◆用語解説◆ 『SOGI～ソジ～』

「LGBT」と「SOGI (ソジ)」

■ LGBTとは、以下の言葉の頭文字をとったものです。

L レズビアン：同性を好きになる女性

G ゲイ：同性を好きになる男性

B バイセクシュアル：両性を好きになる方

T トランスジェンダー：生物学的・身体的な性、出生時の戸籍上の性と性自認が一致しない方

■ SOGIとは、性的指向 (sexual orientation) と性自認 (gender identity) の頭文字をとった略称です。SOGIは、特定の性的指向や性自認の人のみが持つものではなく、すべての人が持つものです。

出典：【厚生労働省】HPより
一部抜粋
(くわしくはコチラ⇒)



福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別・立場に関わらず、多様な価値観を認め合い持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、かつ、仕事と生活の調和を実現することを目指しております。

福島県立医科大学 ダイバーシティ推進室

E-mail : gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel : 024-547-1657 (内線:2807) / HP : <https://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>
ダイバーシティ推進室長 小宮 ひろみ